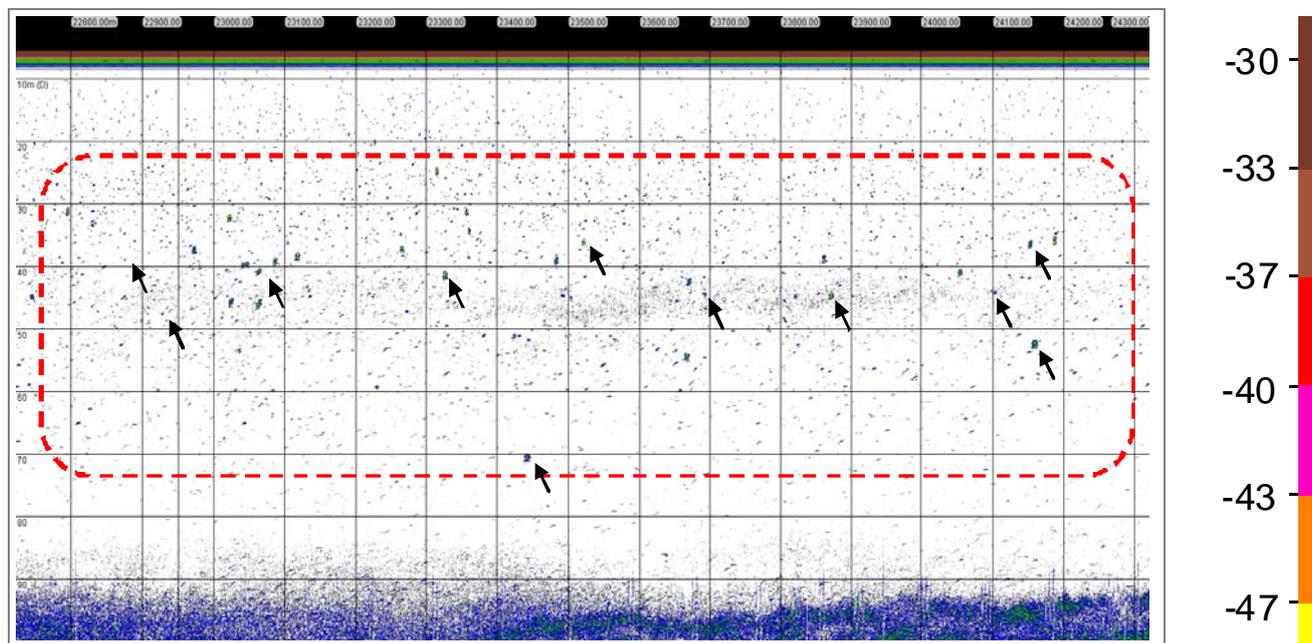


反応構成生物： エチゼンクラゲ (*Nemopilema nomurai*)

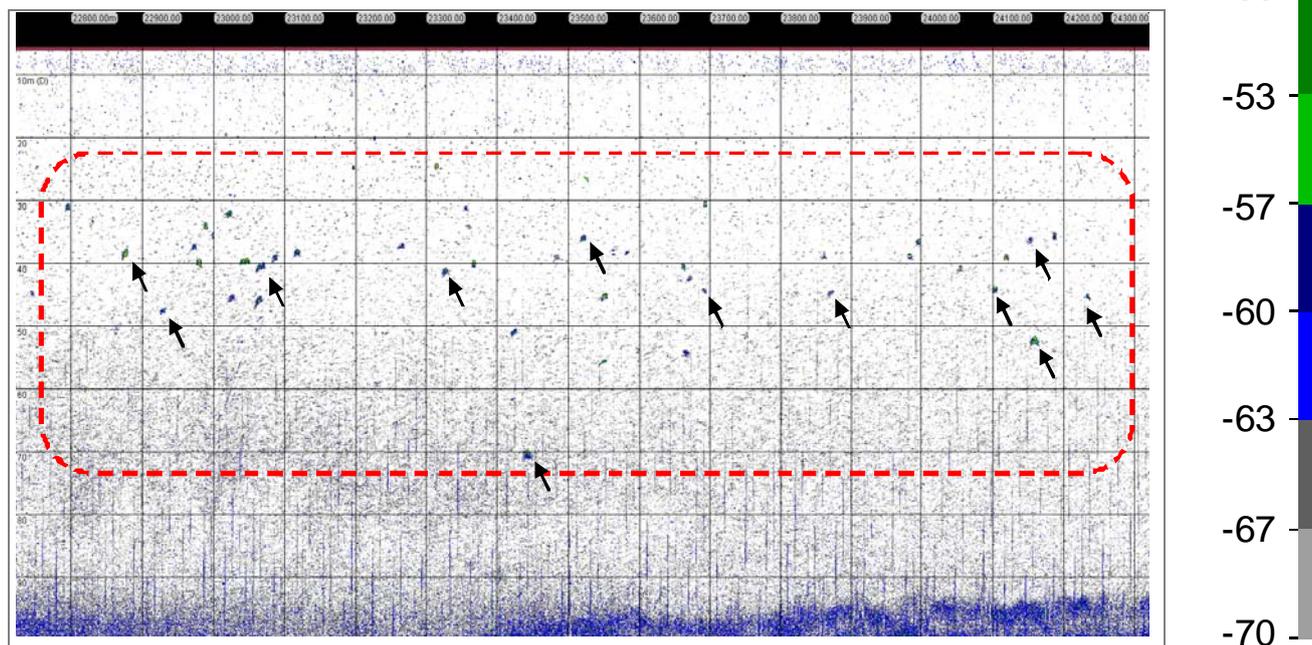
収録日時：2007年11月25日 (昼間 9:15頃)

収録海域：日本海，若狭湾

収録機種・周波数：EK60・38 kHz / 120 kHz



(矢印で示すような，点在する反応がエチゼンクラゲ) Echogram-1 38 kHz



(矢印で示すような，点在する反応がエチゼンクラゲ) Echogram-2 120 kHz

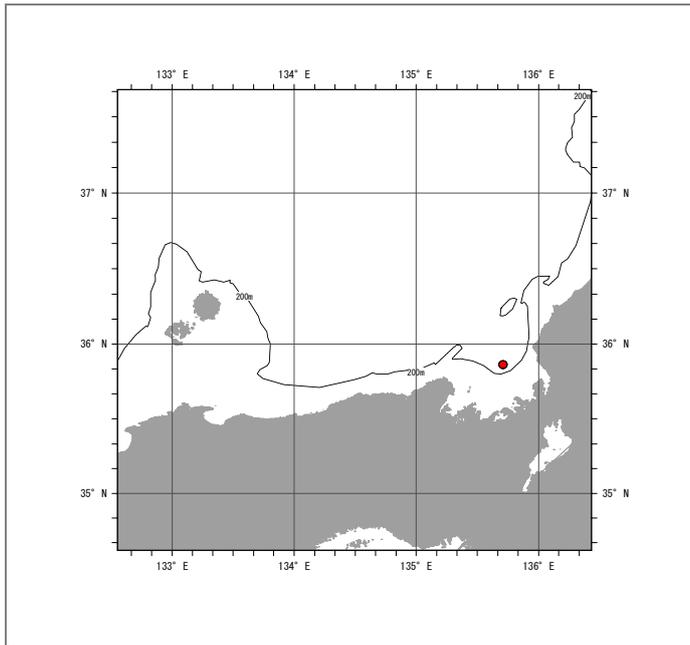
表示スケール： 縦 100 m / 横 1574 m

グリッド間隔： 縦 10 m / 横 100 m

表示色・表示  $S_v$  範囲： EK500color ・ -70 ~ -30 dB

データ提供：水産工学研究所 (貞安一廣)，第七開洋丸

## 収録海域詳細↓



## 反応構成生物写真・イラスト↓



写真提供：貞安一廣（水産工学研究所）

## 魚種確認の有無・対象生物判別の根拠

表中層トロール網（LC-Net：網口開口部，10 m×10 m）にて，サンプリングを実施。ヘッドロープに魚網監視装置（PI32），深度センサーおよび水中カメラを取り付け。エチゼンクラゲと思われる音響反応がある深度層を曳網。大量のエチゼンクラゲの入網を確認。水中カメラの映像から，音響反応がある深度層にて入網している事を確認。

## サンプリング詳細情報・備考

LC-Net によるサンプリングにより，傘径 1.0 m~1.5 m のエチゼンクラゲを多数漁獲。他生物の混獲はなし。

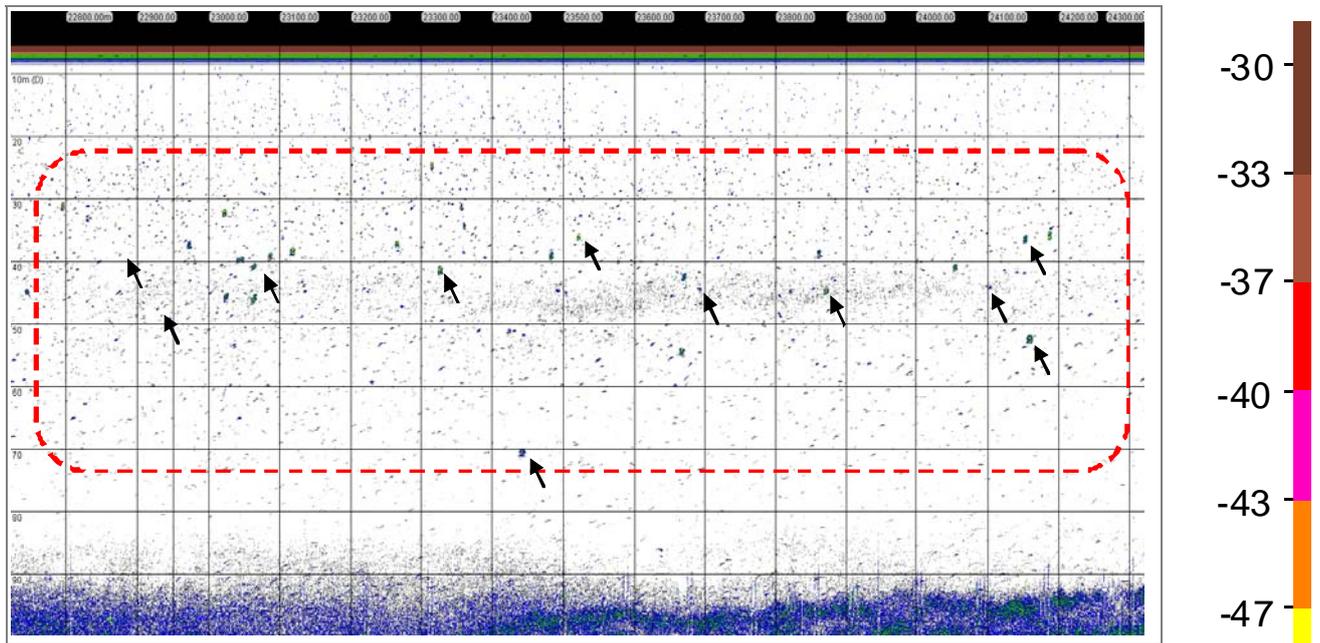
エコーグラム上の音響反応の判別を行う場合，周囲雑音による音響反応を取り除くために，表示  $S_v$  の範囲の下限を引き上げると良い。また，多周波数が使用できる環境であれば，周波数毎の音響反応の違いを利用することにより，エチゼンクラゲの音響反応の抽出が容易となる。

反応構成生物： エチゼンクラゲ (*Nemopilema nomurai*) (前項と同じエコーグラム.異なる周波数表示)

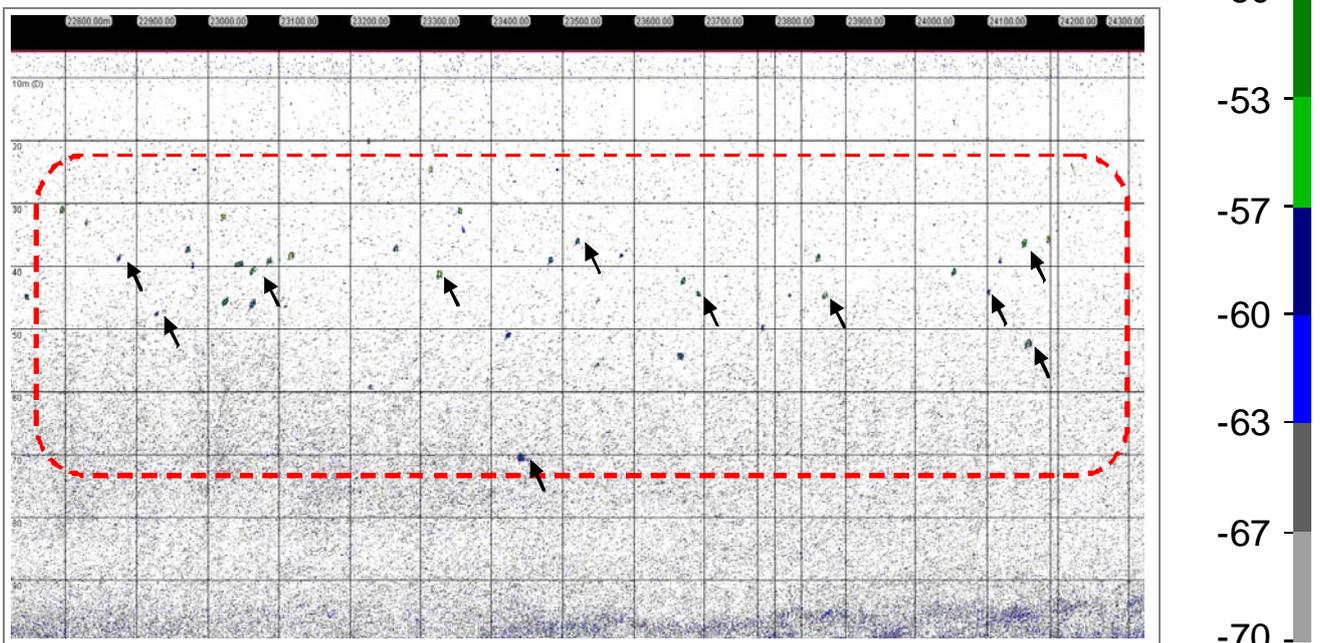
収録日時：2007年11月25日 (昼間 9:15頃)

収録海域：日本海, 若狭湾

収録機種・周波数：EK60・38 kHz / 200 kHz



(矢印で示すような, 点在する反応がエチゼンクラゲ) Echogram-1 38 kHz



(矢印で示すような, 点在する反応がエチゼンクラゲ) Echogram-2 200 kHz

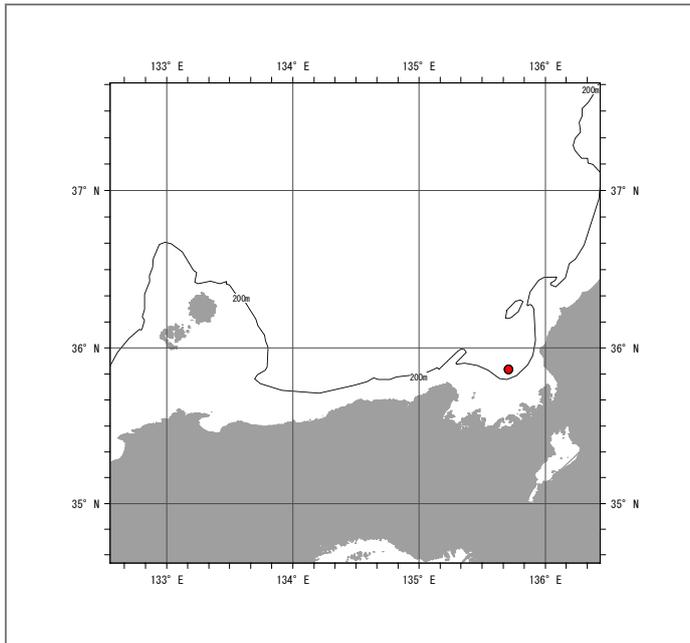
表示スケール： 縦 100 m / 横 1574 m

グリッド間隔： 縦 10 m / 横 100 m

表示色・表示  $S_v$  範囲： EK500color ・ -70 ~ -30 dB

データ提供：水産工学研究所 (貞安一廣), 第七開洋丸

## 収録海域詳細↓



## 反応構成生物写真・イラスト↓



写真提供：貞安一廣（水産工学研究所）

## 魚種確認の有無・対象生物判別の根拠

表中層トロール網（LC-Net：網口開口部，10 m×10 m）にて，サンプリングを実施。ヘッドロープに魚網監視装置（PI32），深度センサーおよび水中カメラを取り付け。エチゼンクラゲと思われる音響反応がある深度層を曳網。大量のエチゼンクラゲの入網を確認。水中カメラの映像から，音響反応がある深度層にて入網している事を確認。

## サンプリング詳細情報・備考

LC-Netによるサンプリングにより，傘径 1.0 m~1.5 m のエチゼンクラゲを多数漁獲。他生物の混獲はなし。

エコーグラム上の音響反応の判別を行う場合，周囲雑音による音響反応を取り除くために，表示  $S_v$  の範囲の下限を引き上げると良い。また，多周波数が使用できる環境であれば，周波数毎の音響反応の違いを利用することにより，エチゼンクラゲの音響反応の抽出が容易となる。